

小 / 理科 / 6年 / 生物と環境 /
人と動物の体 / 理解シート

人間の血管の長さは、全部でどれくらいあるの



大人の血管の長さは、全身で約10万km（地球を2回りする長さ）にもなるのさ。

皮膚の上から見える血管は、ほんの一部

自分の体の日にやけていない部分を観察すると、皮膚の下に青く血管が走っているのが、すけて見えます。血管がない部分のほうが多いように見えます。

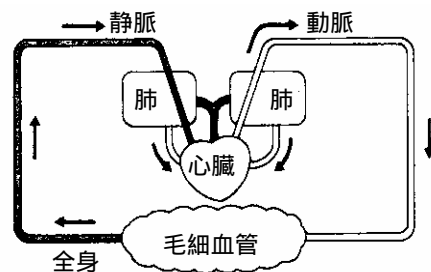
血管には、^{しんぞう}心臓から全身に送り出される血液が流れる動脈と、全身から心臓にもどってくる血液が流れる静脈の2種類があります。動脈を流れる血液は、酸素をたくさんふくんであざやかな赤い色をしています。静脈には、二酸化炭素を多くふくむ少し黒っぽい血が流れています。そして、皮膚の表面近くに見える血管は、どれも静脈で、酸素をふくむ血液が流れる動脈は、皮膚の深いところにあって、表面からは見えないのです。

血管の95%は、目に見えない細さの毛細血管

つめやかみの毛以外の体のどこを切っても、血が出てきます。これは、血管の先が細かく枝分かれして行って、先のほうは、けんび鏡でしか見えない細い毛細血管があみの目のように全身に広がっているからです。

血管の長さは、全身にすき間なく広がっている毛細血管もたし合わせると、およそ10万kmにもなるのです。そのうちの95%が毛細血管です。

^{こきゅう}呼吸で体内にとり入れた酸素を、全身のすみずみまで運ぶのも、体内でできた二酸化炭素を集めてきて、^{はい}肺から外に出せるようにしているのも、この毛細血管です。



< 血液の流れ >